

先号から1ヶ月近く更新しないまま猛暑日に耐えていたところ、芦花公園のツクツクボウシ(寒蟬)が夏の終わりになった事を告げている。今年の夏は、コロナ変異株による更なる感染拡大、豪雨と台風による異常気象、ウクライナ、台湾情勢による緊張と落ち着かない夏でしたが、日々をどのようにお過ごしですか？

今号は夏の木の花便りをお届けします。

サルスベリ(百日紅)は、その名の通り真夏の3ヶ月余、元気に花を咲かせる逞しい花。典型的な赤、紫色の花が街路樹として目に付くが、白色も最近増えてきた。変わり種として、1m位の低木の園芸変種、沖縄原産の**島百日紅**が芦花公園に植えられている。

甘い香りの**一重と八重のクチナシ(梔)**は6月の花。漢字名は難読。実は熟しても口を開かないので“口無し”と和名が付けられたとか。実に含まれる**橙色色素はきんとんに**使われる。

エンジュ(槐)の花は淡い緑色。漢字名が難しい。花の色は異なるが形が**ハギ(萩)**に似ている(筆者の印象)。同じ**マメ科のハリエンジュ(針槐)**(別名・ニセアカシア)の花は白色で、房状の藤に似た花を5月頃咲かせる。

3段目の花の特徴と名の由来に注目しよう。**センダン(梅檀)**(別名・白檀)は香木の一つ。「**梅檀は二葉より香し**」という諺がある。その意味は、**梅檀**が発芽の頃から香気があるように、大成する人物は幼いときから人並みはずれて優れたところがある。**大器晩成**という諺を推す人もいる。

ナツツバキ(夏椿)(別名・沙羅)。沙羅双樹はお釈迦様が入滅した場所に生えていたとされる木で、仏教における三大聖木の一つ。**フヨウ(芙蓉)**の花の優しい姿は、しとやかで美しい女性に例えられている。なお、旧富士(みずほ)銀行の融資企業を中心とした企業集団が芙蓉グループと呼ばれている。

4段目の木は、白い小さな花をたくさん付けて咲くところが共通している。派手ではないが、知る人ぞ知る夏の木の花だ。ネット情報を引用すると：**リョウブ(令法)**の葉は食用になる。名の由来は飢饉に備えて貯蔵と採取を「令法」で命じたことによる。

サンゴジュ(珊瑚樹)は、真っ赤な実の集まりが珊瑚のように見える。

シマトリネコ(島栲)の島は沖縄産、樹皮を煮詰め粘り気のある状態にしたものが「共練濃(トモネリコ)」を意味する。**コミノネズミモチ(小実鼠麴)**は、台湾、ベトナム原産の愛好家に人気の花。近づいて見ると上品な白い小さな花たちが輝いている。